

ME（エムイー）？CE（シーイー）って何？

皆さんは臨床工学技士（Clinical Engineer:CE）という職業をご存じですか？

臨床工学技士は医師の指示のもと、生命維持管理装置の操作を行うほか、多種にわたる医療機器の保守点検・管理を行う職業です。1987年に制定された国家資格で医療職の中でも比較的新しく、その有資格者は全国で50,000人ほどです。特定の診療科を持たず、急性期から慢性期まで関わる臨床工学技士は、資格が制定される前まで、Medical Engineer（医療機器の技術者、医療機器を管理する人という意味）からMEと呼ばれてきました。

医療の現場で機器が使用され始めたのは、1900年頃と言われており、日本では1950年頃から麻酔器や保育器といった機器が普及し始めました。そもそも医療現場で機器を使用するためには技術者(Engineering)が開発した機器を医療現場の医療者(Medical)が使用し、効果を確かめる必要があります。しかし、当時の医療現場では医療機器の操作や管理をする職種は定められておらず、他の国家資格者が医療機器を扱う業務も行っていました。医療機器の発達が目覚ましく、工学的な専門知識を得た技術者が保守管理を行う必要性から国家資格の臨床工学技士が誕生しました。アメリカではCE(Clinical Engineering)という医療機器に関する職種が医療現場で活躍しており、このような背景もあって、臨床工学技士のことをCEと呼ぶようになりました。現在もMEと呼んでいる施設が多いのは昔からの名残です。

当院には現在7名の臨床工学技士が在籍しています。呼吸器業務、循環器業務、透析業務、高気圧酸素治療業務、手術室業務、新生児集中治療室業務、その他医療機器管理業務を行っており、院内の様々な分野で使用される生命維持管理装置の性能が維持されるよう適切な操作・保守管理を行っています。あらゆる医療スタッフが使いやすい機器を他職種と連携して選定し、また、院内研修を実施することにより医療機器の安全教育も行っています。

生命維持管理装置は日々進歩し高度化しています。操作を誤ったり故障したりすると生命に直接かかわる重要な装置であるため、その取扱いには細心の注意を払い医療を支える医療機器のスペシャリストとして日々業務に携わっています。

【臨床工学科係長 臨床工学技士 三木 康正】

